

学位論文審査結果の報告書

氏 名 大洞 佳代子

生 年 月 日 昭和・~~平成~~ 57年 9月 6日

本 籍 (国 籍) 兵庫県

学 位 の 種 類 博 士 (医 学)

学 位 記 番 号 医 第 1317号

学位授与の条件
(博士の学位) 学位規程第5条該当

論 文 題 目

Inflammation-induced miRNA-155 inhibits self-renewal of
neural stem cells via suppression of CCAAT/enhancer binding
protein β (C/EBP β) expression

(炎症で誘導されるmiRNA-155はC/EBP β の抑制を介して神経細胞
の自己複製を阻害する)

学位論文受理日 2019年 11月 6日

学位論文審査終了日 2020年 1月 30日

審 査 委 員 (主 査) 宮澤 正顯



(副主査) 高橋 英夫



(副主査) 三井 良之



(副 査)



指 導 教 員 福田 寛二



博士論文の印刷公表	公 表 年 月 日	出版物の種類及び名称
	2017 年 2 月 7 日 公 表 (DOI: 10.1038/srep43604)	博士学位論文 Scientific Reports 2017 年 2 月 7 日 online 掲載
	Inflammation-induced miRNA-155 inhibits self-renewal of neural stem cells via suppression of CCAAT/enhancer binding protein β (C/EBP β) expression	
	全 文	

主査である宮澤は、プレゼンテーションで示されていたマウス系統の記述に誤りがあったことを指摘し、① 例えば肝切除後の再生にC/EBP β が関与することがよく知られているが、ここでもmiR-155の発現変動があるのか、② 遺伝子発現の定量は具体的にどのような方法で行ったのか、③ C/EBP β の最もよく知られた標的はIL-6遺伝子発現であり、C/EBP β によるIL-6発現誘導は細胞老化と関連することが知られているが、解析にIL-6を対照として加えなかった理由は何か、④ 神経幹細胞のステムネス関連遺伝子の発現が低下することと、ニューロスフェアの形態変化との間にどのような関係があるのか、⑤ C/EBP β には複数のアイソフォームがあり、転写活性化能を欠くアイソフォームは転写抑制に働くことが知られているが、タンパク質レベルの解析でC/EBP β のアイソフォームを調べていないのは何故か、などを質問した。

これらの質問に対して、大洞氏は自らの実験的観察結果と文献的考察を交えて的確に回答を与え、解析の不十分な点については率直にそれに同意して、今後の追加検索の重要性を認めた。

従って、主査と副主査は本学位論文にかかる研究が、大洞氏自身が主体的に関与して実施されたものであることを認め、大洞氏の研究成果が神経幹細胞のステムネス維持機構とその炎症による障害の機構に関する従来の学術水準に新たな知見を加えたものであることを確認した。また、大洞氏は本研究の過程を通じて専門領域における研究を指導できるだけの知識と技量を身に付けたことを確認し、合議の末最終試験合格と認めた。

3) 最終試験の結果： 合

4) 学位授与の可否： 可